（公財）中央果実協会
No.272

チリの落葉果実事情（ブドウ、リンゴ）

米国農務省GAINレポート　2024年10月31日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所（チリ）が作成した「落葉果実年次報告書」のブドウの項を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

＜生食用ブドウ＞

表1　チリの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ（生食用、生鮮） 販売年度の始まり チリ	2022/2023 2022 年 10 月		2023/2024 2023 年 10 月		2024/2025 2024 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	43,025	43,025	39,931	39,931	0	39,000
収穫面積（ヘクタール）	42,000	42,000	39,500	39,500	0	38,500
商業的生産量（トン）	651,500	651,500	630,000	678,216	0	723,000
非商業的生産量（トン）	4,800	4,800	5,000	5,000	0	5,000
生産量合計（トン）	656,300	656,300	635,000	683,216	0	728,000
輸入量（トン）	300	700	300	300	0	300
総供給量（トン）	656,600	657,000	635,300	683,516	0	728,300
生鮮国内消費量（トン）	160,300	160,679	155,300	155,000	0	158,300
輸出量（トン）	496,300	496,321	480,000	528,516	0	570,000
市場からの隔離（トン）	0	0	0	0	0	0
総仕向量（トン）	656,600	657,000	635,300	683,516	0	728,300

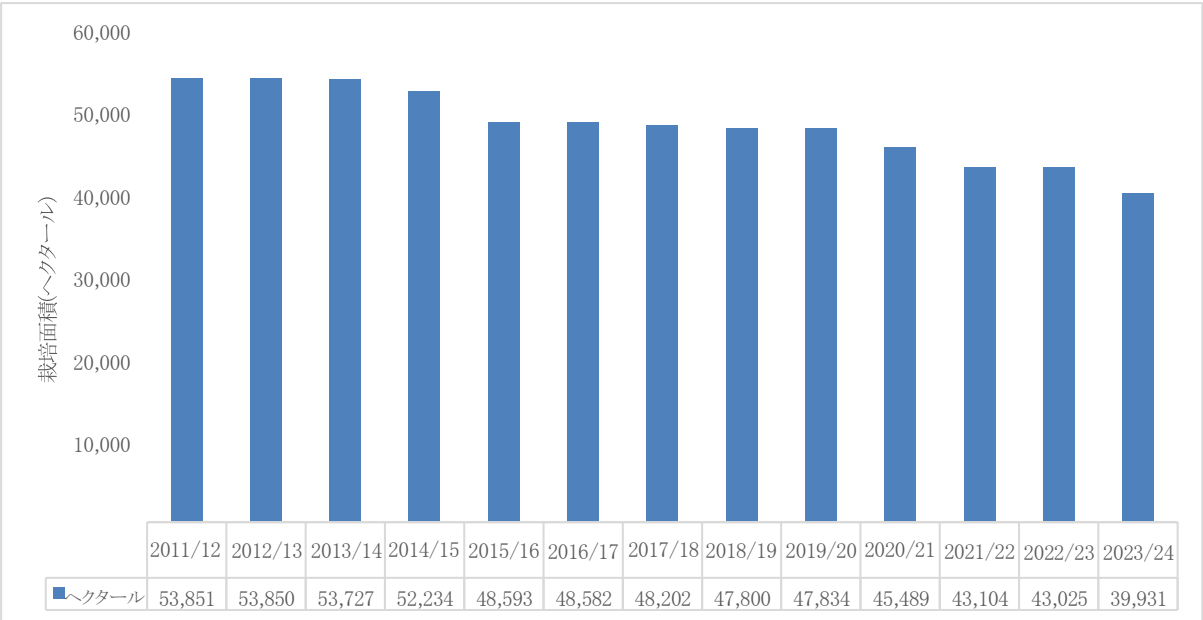
公式データは PSD Online Advanced Query からアクセスできる。
出典：当事務所推計

生産

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの生産量を、生産を妨げる可能性のある予期しない悪天候が無いことを前提に、収量の増加により、6.6%増の合計72万3千トンと推定する（表1）。生食用ブドウの収量は、豊富な降雨量や十分な低温積算時間等、良好な天候条件により増加すると見込まれる。

当事務所はまた、2024/25年度には、生食用ブドウの栽培面積が2.3%減少し、合計3万9千ヘクタールになると予測する。生食用ブドウの栽培面積は、利益率の低さから10年以上にわたって減少している（図1）。他の輸出国との競争の激化と、クリムゾン、フレーム、レッドグローブ等の従来品種の低価格により、生食用ブドウの小規模な輸出業者は市場から撤退を余儀なくされている。

図1：生食用ブドウの栽培面積（ヘクタール）



出典：ODEPA、2024年

チリ農業省調査政策局（ODEPA）のデータによると、チリのすべての産地で生食用ブドウの栽培面積が減少している（表2）。北部のアタカマ州では、人件費、輸送費、農薬費等の高い生産コストと低価格により、特に急激な減少が見られた。アタカマ州のブドウは、米国市場でペルー産のブドウとの激しい競争に直面しており、それが価格の下落につながっている。全国的には、ブドウ園の更新には生産者による多額の投資が必要なため、新しいブドウ品種への需要の高まりにより利益率がさらに厳しくなっている。

メトロポリターナ州の生食用ブドウ栽培面積は、過去3年間で22.5%減少した。同様に、チリ最大の産地であるオイギンス州では、栽培面積が5.2%減少した。これらの地域では、生食用ブドウ園は、クルミ、サクランボ、柑橘類等のより収益性の高い作物に転換されたり、都市部の拡大によって転用されたりした。

表2：生食用ブドウの地域別栽培面積　2023/24年度（ヘクタール）

州	栽培面積（ヘクタール）	3年間の変動率（%）	シェア（%）
アタカマ	5,987	−12.4%	15.0%
コキンボ	7,321	−10.3%	18.3%
バルパライソ	8,413	−15.6%	21.1%
メトロポリターナ	5,310	−22.5%	13.3%
オイギンス	12,736	−5.2%	31.9%
マウレ	163	−32.3%	0.4%
その他	1		
合計	**39,931**	**−12.2%**	**100.0%**

注：栽培面積の変動は3年ごとに計測される。ここに示したデータは入手可能な最新のものである
出典：2024年の ODEPA のデータに基づく

政策

米国農務省は、チリの3つの州（アタカマ、コキンボ、バルパライソ）について、システムアプローチプロトコルによる生食用ブドウの輸出を許可する最終通知を2024年7月19日に発表した。これらの地域は、チリ国内でもヨーロッパブドウ蛾（仮称、*Lobesia botrana*）が存在しないか、存在密度が低い地域として特定されている。新しい要件は、チリニセ赤ダニ（仮称、*Brevipalpus chilensis*）からも米国の農業を保護するものである。

システムアプローチには、米国に輸出されるブドウにヨーロッパブドウ蛾（仮称）やチリニセ赤ダニ（同）がいないことを保証するための、複数の重複する要件が備わっている。新しい要件では、輸入業者は害虫を処理するために放射線を使用することも許可されている。輸入業者はまた、既存の臭化メチル燻蒸アプローチを引き続き使用することもできる。輸入業者がどのアプローチを採用するにせよ、これらの強力な要件は、輸入された生食用ブドウが植物害虫を導入するリスクをほとんどなくし、安全な輸入を確保するのに役立つ。

チリの輸出業者らによると、システムアプローチは、臭化メチルの使用を避けることにより、チリの3つの地域からの生食用ブドウの競争力を高める。この変更により、米国到着時の生食用ブドウの品質と状態が向上し、また有機栽培された生食用ブドウの米国市場への輸出も可能になる。

消費

生食用ブドウの生産量の増加に伴い、当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの生鮮国内消費量を2.1%増の15万8,300トンと推定する。この消費量は商業的生産量の21.9%を占め、大部分が硬さ、サイズ等の輸出品質基準を満たさない生食用ブドウで構成されている。

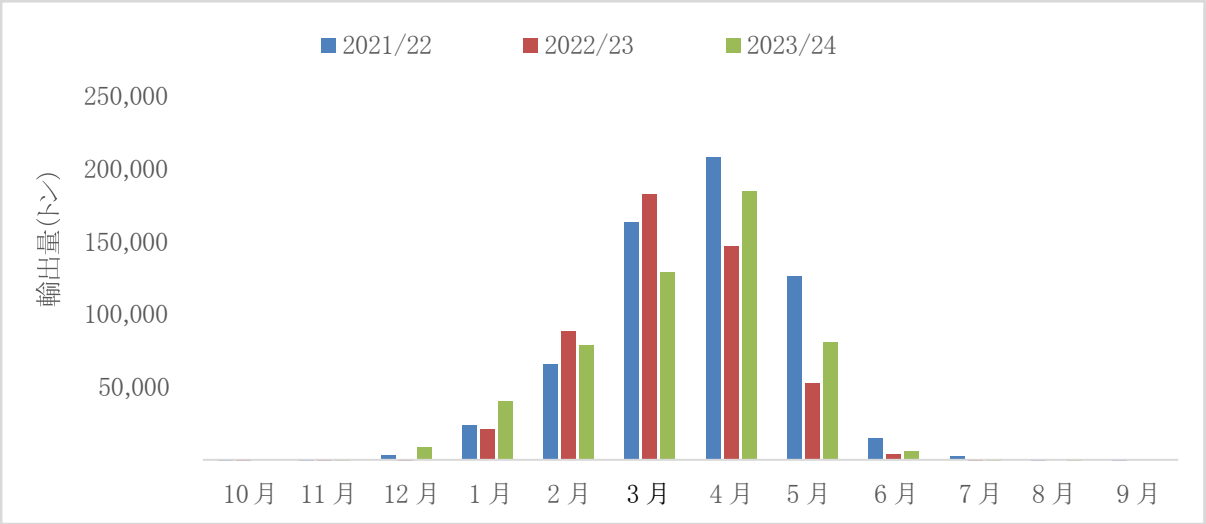
貿易

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの輸出量を、生産量の増加により7.8%増の合計57万トンと推定する。チリの生食用ブドウの上位の輸出市場は、米国、中国、オランダ、英国である。

2022/23年度の米国向け生食用ブドウ輸出量は24万9,782トンで、チリの生食用ブドウ輸出量の53.2%を占めた（表3）。チリの生食用ブドウ輸出業者は、生食用ブドウの新品種の需要増と、ペルー産生食用ブドウとの競争の激化により、米国市場で課題に直面している。これらの課題にもかかわらず、2023/24年度（8月までのデータ）では、チリの米国向け生食用ブドウ輸出量は30.3%増加し、合計32万5,533トンであった。

中国はチリの生食用ブドウの2番目に大きな市場であり、2022/23年度の輸出量は5万6,928トンで、チリのブドウ総輸出量の11.5%を占めた。2023/24年度(8月までのデータ)には、輸出業者が米国向けの輸出量の割合を増やしたため、チリから中国への輸出量は46.7%減少した。同様に、オランダと英国への輸出量はそれぞれ13.4%及び8.9%減少した。

図2: 生食用ブドウの月別輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表3: チリから世界への生食用ブドウ輸出量(トン)

品目: 080610 ブドウ 生鮮						
輸出先国	販売年度			年度初め～直近月		
	2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	変動率 (%)	2022年10月～2023年8月(トン)	2023年10月～2024年8月(トン)	変動率 (%)
世界	608,194	496,321	-18.4%	496,321	528,516	6.5%
米国	310,058	249,782	-19.4%	249,782	325,533	30.3%
中国	77,627	56,928	-26.7%	56,928	30,347	-46.7%
オランダ	45,196	31,076	-31.2%	31,076	26,910	-13.4%
英国	23,789	21,676	-8.9%	21,676	19,745	-8.9%
韓国	17,952	16,491	-8.1%	16,491	10,780	-34.6%
日本	14,118	13,457	-4.7%	13,457	12,242	-9.0%
スペイン	10,536	12,282	16.6%	12,282	10,000	-18.6%
メキシコ	11,239	11,344	0.9%	11,344	13,808	21.7%
カナダ	9,600	10,089	5.1%	10,089	16,461	63.2%
エクアドル	9,654	8,537	-11.6%	8,537	9,692	13.5%
ロシア	4,274	6,638	55.3%	6,638	3,569	-46.2%
ブラジル	6,551	6,031	-7.9%	6,031	6,543	8.5%
ドイツ	5,641	4,608	-18.3%	4,608	3,128	-32.1%
ポルトガル	4,694	3,358	-28.5%	3,358	3,248	-3.3%
コロンビア	4,426	3,352	-24.3%	3,352	4,762	42.1%
その他	52,839	40,672	-23.0%	40,672	31,748	-21.9%

出典: Trade Data Monitor, LLC

＜リンゴ＞

表4　チリのリンゴの生産需給統計

リンゴ（生鮮） 販売年度の始まり チリ	2022/2023 2023 年 1 月		2023/2024 2024 年 1 月		2024/2025 2025 年 1 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	29,035	29,035	29,006	29,006	0	28,000
収穫面積（ヘクタール）	28,500	28,500	28,500	28,500	0	27,000
結果樹本数（千本）	32,500	32,500	32,500	32,500	0	31,500
未結果樹本数（千本）	2,250	2,250	2,000	2,000	0	1,800
果樹本数合計（千本）	34,750	34,750	34,500	34,500	0	33,300
商業的生産量（トン）	870,000	870,000	860,000	904,000	0	910,000
非商業的生産量（トン）	10,000	10,000	10,000	10,000	0	10,000
生産量合計（トン）	880,000	880,000	870,000	914,000	0	920,000
輸入量（トン）	3,000	3,000	3,000	3,000	0	3,000
総供給量（トン）	883,000	883,000	873,000	917,000	0	923,000
生鮮国内消費量（トン）	413,700	413,696	410,000	415,000	0	416,000
輸出量（トン）	469,300	469,304	463,000	502,000	0	507,000
市場からの隔離（トン）	0	0	0	0	0	0
総仕向量（トン）	883,000	883,000	873,000	917,000	0	923,000

公式データは PSD Online Advanced Query からアクセスできる。
出典：当事務所推計

生産

2024/25年度のリンゴの栽培面積は2万8千ヘクタールに減少すると予想されており、過去10年間に観察された減少傾向が続いている。当事務所は、2024/25年度のリンゴ生産量を、前年比0.7%増の92万トンと推定する。この生産量の微増は収量の向上に起因しており、栽培面積の減少を埋め合わせるものと予想される。リンゴ生産は、冬の豊富な降水量と十分な低温積算時間の恩恵を受けた。

リンゴの輸出ビジネスは非常に競争が激しく、チリの輸出業者は、生産性と品質（色、食味及び状態）が高く、人気のある品種を常に把握しておく必要がある。チリでは主にロイヤルガラ、ピンクレディー、ふじ、グラニースミスの各品種が栽培されている。最も競争力のある生産者達は、ブルックフィールドガラ、ピンクレディー、ロージーグロー、アンブロシア、エンヴィ、モディ、バックアイ等の新しい品種で果樹園を更新している。

チリの中南部に位置するマウレ州とオイギンス州は、それぞれ国内のリンゴ栽培面積の62.4%及び22.0%、合わせて84.4%を占めている。しかし、現代的な品種やサクランボ、クルミ等の他の作物と比較して収益性の低い古い品種の果樹園を保有している生産者が多いため、栽培面積は両州ともに減少している。さらに、チリのすべてのリンゴ産地で収益の低さから栽培面積が減少している。

消費

当事務所は2024/25年度のリンゴの国内消費量（生鮮及び加工品）を、生産量の増加に伴い0.2%増の合計41万6千トンと推定する。この消費量は、商業的なリンゴ生産量の45.7%に相当する。この45.7%という数字は、リンゴ産業を維持する上での国内市場の重要性を浮き彫りにしている。

貿易

当事務所は、2024/25年度のチリのリンゴ輸出量を、生産量の微増に即して前年比1.0%増の50万7千トンと予測する。2023/24年度（8月までのデータ）のチリのリンゴ輸出量は、2022/23年度から7.2%増加し、合計44万9,093トンであった。輸出シーズンが遅れたため月間輸出量は当初前年同期比で減少したが、シーズン後半の輸出水準が高かったため総輸出量は調整された。

コロンビアはチリ産リンゴの最大の市場である。チリは2022/23年度に総輸出量の13.8%に相当する6万4,847トンをコロンビアに輸出した。2023/24年度（同上）には、この市場への輸出量は4.5%増加した。

ブラジルは2022/23年度のチリ産リンゴの2番目に大きな輸出先であり、輸出量のうち11.2%がブラジル向けであった。2023/24年度（同上）には、輸出量が91.4%増加し、ブラジルがコロンビアを抜いて最大の輸出先となった。当局によるアクセス規制の緩和とチリ産果実に対する需要の高まりにより、チリの輸出業者

はブラジルへの輸出を増やすことを目指してきた。

米国はチリ産リンゴの3番目に大きな市場であり、チリのリンゴ輸出量の9.9%を占めている。しかし、2023/24年度には、リンゴ輸出業者がブラジルへの商品の割り当てを増やしたため、米国向けは46.9%減少した。

表6　チリから世界へのリンゴ輸出量（トン）

商品: 080810, りんご, 生鮮						
輸出先国	販売年度			1月～8月		
	2021/22	2022/23	変動率 (%)	2023	2024	変動率 (%)
世界	602,581	469,304	−22.1%	418,901	449,093	7.2%
コロンビア	85,899	64,847	−24.5%	53,885	56,296	4.5%
ブラジル	65,193	52,724	−19.1%	41,941	80,288	91.4%
米国	52,669	46,360	−12.0%	46,221	24,527	−46.9%
エクアドル	47,169	38,357	−18.7%	32,775	32,071	−2.1%
ペルー	39,013	37,207	−4.6%	27,046	15,208	−43.8%
台湾	29,432	23,567	−19.9%	23,347	28,149	20.6%
サウジアラビア	23,848	21,256	−10.9%	21,256	27,890	31.2%
オランダ	33,819	19,171	−43.3%	18,507	20,764	12.2%
インド	35,003	16,483	−52.9%	16,483	26,976	63.7%
ドイツ	19,903	14,197	−28.7%	13,684	18,682	36.5%
ボリビア	15,992	12,366	−22.7%	9,704	9,531	−1.8%
フランス	12,693	11,970	−5.7%	11,217	9,845	−12.2%
カナダ	10,015	10,906	8.9%	10,873	5,148	−52.7%
グアテマラ	16,427	10,727	−34.7%	10,086	11,338	12.4%
英国	18,770	9,580	−49.0%	9,319	16,933	81.7%
その他	96,736	79,586	−17.7%	72,557	65,447	−9.8%

出典：Trade Data Monitor, LLC